

元氣だと自負した我の膝笑う

竹本タエ子

改革にどこまで出せる石破色

寺畑 俊子

「そうですね」是も非もなくてけんかなく

藤井 節子

肩のこり膝の痛みに喝入れる

磯部 佳子

あぶないぞトランプ・マスクの俺一番

松村 隆良

げんきだとじふしたわれのひざわらう

たけもと たえこ

いかくにどこまでだせるいしばしょく

てらはた としこ

「そうですね」ぜもひもなくてけんかなく

ふじい せつこ

かたのこりひぎのいたみにかついれる

いそべ よしこ

あぶないぞとらんぷ・ますくのおれいちばん

まつむら たかよし

記念樹の桜と共に老いにけり

田中 孝利

廃校に残る校訓花菜風

林 保江

水仙の吐息墓標に芳りゆく

賤間 由美子

木の芽雨「みどりのゆび」を思い入る

馬場 精作

ロボットの膳運び来る春浅し

山本 隆子

きねんじゆのさくらとともにおいにけり

たなか たかし

はいこうにのこるこうくんはななかぜ

はやし やすえ

すいせんのといきぼひょうにかおりゆく

ざいま ゆみこ

このめあめ「みどりのゆび」をおもいいる

ばば せいさく

ろぼっとのぜんはこびくるはるあさし

やまもと たかこ

「山茶花」の会と命名満場の
一致で決まる老人の会

川本 禮子

転がりし夫の錠剤捜しおり
常と変わらぬ元日の朝

河野 美津子

玄関に靴並びおり初曾孫
手にのる程のファーストシューズ

椎木 道子

入学よりすっかり馴染んだランドセル
この三年の思いも詰める

賤間 星

青空に黄緑色の竹枝が
おいでおいでと春風招く

山口 正子

「さざんか」のかいとめいまいまんじょうの
いっちできまろうじんのかい

かわもと れいこ

ころがりしつまのじょうざいさがしおり
つねとかわらぬがんじつのあさ

かわの みつこ

げんかんにくつならびおりはつひまご
てにのるほどのふぁーすとしゅーず

しいぎ みちこ

にゆうがくよりすっかりなじんだらんどせる
このさんねんのおもいもつめる

ざいま せい

あおぞらにきみどりいろのたけえだが
おいでおいでとはるかぜまねく

やまぐち まさこ

自由律俳句

まっさらな砂浜にまっさらな足あと

岡村 裕司

そうじゃねえ よりそう影ふたつ

西岡 悦子

何事もなかったように心とかす朝日

松下 満江

自慢の応援歌を口ずさみエプロン結ぶ

田中 律子

絵本読んで地球を旅する

林 陽子

まっさらなすなはまにまっさらなあしあと

おかむら ひろし

そうじゃねえ よりそうかげふたつ

にしおか えつこ

なにごともないようにこことかすあさひ

まつした みつえ

じまんのおうえんかをくちずさみえぶろんむすぶ

たなか りつこ

えほんよんでちきゅうをたびする

はやし ようこ